

平成 16 年 12 月 24 日

各 位

株式会社三菱東京フィナンシャル・グループ
株式会社 UFJ ホールディングス
三菱投信株式会社
UFJ パートナース投信株式会社

三菱投信 と UFJ パートナース投信の合併について

株式会社三菱東京フィナンシャル・グループ（取締役社長 畔柳 信雄、以下 MTFG）と、株式会社 UFJ ホールディングス（取締役社長 玉越 良介）は、株主総会の承認と関係当局の許認可等を前提に、両グループの経営統合に向けて鋭意準備を進めており、お客さまにより良質な資産運用サービスをご提供できる体制についても検討してまいりました。今般、その一環として、両グループの資産運用会社である三菱投信株式会社（取締役社長 矢ヶ崎 隆二郎）と UFJ パートナース投信株式会社（取締役社長 宮崎 晃一）について、両投信会社を含む関係当事者間で「合併に関する覚書」を締結し、合併する方向で協議・準備を開始しました。

1. 合併の目的

資産運用業務においては、今後、市場規模の拡大が期待される一方で、競争はさらに厳しくなることが予想され、資産運用会社は運用力の強化と経営の効率化が求められています。これらの市場環境の変化に柔軟に対応するため、MTFG グループと UFJ グループは、両グループの経営統合に併せて三菱投信と UFJ パートナース投信の合併を行うこととしたものです。

これにより、新・投信会社は、両投信会社の強みを生かしつつ、運用力の強化と経営の効率化を図り、お客さまに一層ご満足いただける、より良質で付加価値の高い資産運用サービスをご提供できる体制を構築してまいります。

2. 合併後の資産運用サービス

三菱投信および UFJ パートナース投信は、本年 11 月末現在、国内公募投信残高においてそれぞれ業界第 6 位・第 5 位の地位を占めるなど、資産運用業務においてお客さまから高い評価をいただいておりますが、今回の合併に伴い、両投信会社で培ってきた販売力・商品開発力・運用力を結集・補完することにより、商品ラインナップの拡充などお客さまの幅広いニーズにお応えできる商品のご提供を行うとともに、お客さまの利便性向上に努め、サービスの充実を図ってまいります。

加えて、今回の両グループの経営統合により、本邦トップクラスの運用資産（約 24 兆円、本年 9 月末現在）を持つこととなる新・信託銀行（三菱 UFJ 信託銀行：仮称）の運用インフラやリソースを、新・投信会社を含むグループ会社で共同して活用することで、グループ全体としての運用力の強化と経営の効率化も図ってまいります。

なお、三菱投信と UFJ パートナース投信の公募投信残高（2 社単純合算）は、本年 11 月末現在で業界第 5 位相当となっておりますが、合併後はトップ 3 入りを目指してまいります。

3 . 合併の時期

三菱投信と UFJ パートナース投信の合併は、平成 17 年 10 月 1 日以降、平成 18 年 4 月 1 日までの極力早い時期に完了することを目途としています。なお、新・投信会社の社名、出資構成、人事などの詳細については、今後、関係当事者間で具体的な検討を進めてまいります。

MTFG グループと UFJ グループは、新・投信会社の良質かつ高度な商品・サービスと、統合する銀行・信託・証券の有する優良な営業基盤との相乗効果を一層発揮させるとともに、経営の効率化を進めていくことで、資産運用業務におけるトップクラスの地位を確固たるものとしてまいります。

以 上

【ご参考】合併当事会社の概要

(平成16年12月1日現在)

商号	三菱投信株式会社		UFJホールディングス投信株式会社	
事業内容	投資信託委託業、投資顧問業		投資信託委託業、投資顧問業	
設立年月	昭和60年8月		昭和34年12月	
本店所在地	東京都千代田区		東京都中央区	
代表者	矢ヶ崎 隆二郎		宮崎 晃一	
資本金	20億円		152億円	
発行済株式総数	27,939株		2,608,545株	
株主資本*	54億円		482億円	
総資産*	96億円		574億円	
投資信託残高 (平成16年11月末)	公募 1兆1,959億円 私募 5,740億円 合計 1兆7,699億円		公募 1兆9,492億円 私募 1,863億円 合計 2兆1,355億円	
従業員数*	146名		199名	
株主構成 (持株比率)	三菱東京フィナンシャル・グループ (50.0%) 三菱信託銀行 (25.0%) 東京三菱銀行 (15.0%) 三菱証券 (2.8%) 地銀31行 (7.2%)		UFJホールディングス (100.0%)	
業績推移**	16年3月期	16年9月期	16年3月期	16年9月期
営業収益	89億円	58億円	120億円	74億円
営業利益	17億円	15億円	1億円	8億円
経常利益	17億円	15億円	4億円	12億円
当期利益	13億円	6億円	15億円	6億円

* 三菱投信の株主資本、総資産および従業員数は、本年9月末現在の旧東京三菱投信投資顧問・旧三菱信アセットマネジメント(本年10月1日合併)の2社単純合算です。

** 三菱投信の業績推移は、旧東京三菱投信投資顧問・旧三菱信アセットマネジメント(本年10月1日合併)の2社単純合算です。

なお、新・投信会社の投信運用残高(本年11月末現在:2社単純合算)は3兆9,054億円となります(業界第5位相当)。また、三菱信託銀行およびUFJ信託銀行の受託財産(運用)は、約24兆円となっています(本年9月末現在:2社単純合算)。

米国証券取引委員会 (SEC) への文書提出

株式会社三菱東京フィナンシャル・グループ (「MTFG」) は、株式会社 UFJ ホールディングス (「UFJ」) と MTFG の経営統合に伴い、Form F-4 による登録届出書を米国証券取引委員会 (「SEC」: U.S. Securities and Exchange Commission) に提出する可能性があります。Form F-4 を提出することになった場合、その内容には、目論見書 (prospectus) 及びその他の文書が含まれることとなります。Form F-4 が提出され、その効力が発生した場合、UFJ は、当該経営統合を承認するための投票が行われる予定である株主総会の実施日前に、Form F-4 の一部として提出された目論見書をその米国株主各位に対して発送する予定です。Form F-4 を提出することになった場合、提出される Form F-4 及び目論見書には、MTFG に関する情報、UFJ に関する情報、本経営統合、及びその他の関連情報などの重要な情報が含まれることとなります。UFJ の米国株主におかれましては、UFJ 株主総会において本経営統合について決定なさる前に、本経営統合に関連して SEC に対して提出される可能性のある Form F-4、目論見書、及びその他の文書を注意してお読みになるようお願いいたします。Form F-4 が提出された場合、Form F-4、目論見書、及びその他、本経営統合に関連して SEC に提出される全ての文書は、提出後に SEC のホームページ (www.sec.gov) にて無料で公開されます。なお、株主の皆様には、本経営統合に関連して SEC に提出される目論見書及びその他全ての文書を無料にて配布させていただきます。配布のお申し込みは、お電話・お手紙・電子メールにて承ります。

MTFG 担当者: Mr. Hirotsugu Hayashi 〒100-6326 東京都千代田区丸の内2丁目4番1号 丸の内ビル26F 電話 81-3-3240-9059 メール :Hirotsugu_Hayashi@mtfg.co.jp	UFJ担当者: Mr. Shiro Ikushima 〒100-8114 東京都千代田区大手町1丁目1番1号 電話 81-3-3212-5458 メール : shiro_ikushima@ufj.co.jp
---	---

さらに、MTFG は、Form F-4 (提出することになった場合)、目論見書、及びその他、本経営統合に関連して SEC に提出する全ての文書に追加して、年次報告書 (アニュアル・レポート) 及びその他の情報を SEC に提出することが義務づけられます。これらの SEC に提出される報告書及びその他の情報等については、SEC 内に設置されている公開閲覧室 (public reference rooms 住所: 450 Fifth Street, N.W., Washington, D.C. 20549) 又はニューヨーク州ニューヨーク市・イリノイ州シカゴ市の公開閲覧室において閲覧・コピーが可能です。公開閲覧室に関する詳しい情報については、SEC までお電話にてお問い合わせ下さるようお願いいたします。(電話番号: 1-800-SEC-0330) なお、SEC に提出された文書は、SEC のホームページ (www.sec.gov) 又は民間の文書検索サービスを通して入手可能です。

将来の見通しに関する記述

本書には、MTFG、UFJ、及び本経営統合完了後の事業についての将来の見通しに関する情報及び記述が含まれています。将来の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述を意味します。こうした記述には財政状態に関する見通し及び予測 (financial projections and estimates) 及びその前提、将来の事業・製品・サービス等に関する計画・目的・期待に関する記述、並びに将来のパフォーマンスに関する記述が含まれます。将来の見通しに関する記述は、一般に、期待する ("expect,") 予想する ("anticipates,") 考える ("believes"), 意図する ("intends,")、予測する ("estimates") 又はその他これに類似した表現により特定されます。MTFG 及び UFJ の経営陣は、そうした将来の見通しに関する記述に反映されている期待は合理的なものであると考えますが、将来の見通しに関する情報及び記述は、様々なリスクや不確定要素により影響を受ける事にご注意下さい。その多くは予測困難かつ MTFG 及び UFJ の統御を越えたものである為、将来の見通しに関する記述の中で言及・示唆・予測されている情報及び記述は、実際の結果や状態と大きく異なる可能性があります。かかるリスクと不確定要素には、MTFG が SEC に提出する可能性がある Form F-4 登録届出書に含まれる目論見書の "Cautionary Statement Concerning Forward-Looking Statements" (将来の見通しに関する記述についての注意事項) 及び "Risk Factors" (リスク要因) の項に列挙されたもの等を含めて、MTFG 及び UFJ が SEC 又はその他の現地当局へ公式に提出した文書中で検討又は指摘されている事項が含まれます。MTFG 及び UFJ は、適用法により義務づけられている場合を除き、将来の見通しに関するいかなる情報及び記述もそれを更新又は改定する義務を一切負わないものとします。